



ふじいりつ子

はじめに (平成 17 年 9 月定例会)

皆さんは、自分の子どもや孫が、お母さんのおなかの中で大きくなっている時、何を望んでいらっしゃるでしょう。きっと「男でも女でもいい。どうか無事に元気に産まれますように！」と願われるのではないのでしょうか？

そして、子どもが、日に日に成長していく過程の中で、ドアがバタンと閉まる音に反応すれば「ああ良かった。耳が聞こえる」、光が差し込む方向に眼を動かせば、「ああ良かった。目が見える」と、喜ばれるのではないのでしょうか。

しかし、もしも、目や耳が不自由であることがわかった時、親として、どんな風に受け止め、どのようにして育てようと思われるのでしょうか？多分、計り知れない大きな衝撃を受け、途方にくれる事になるでしょう。

また、病気や事故などにより、ある日突然、目が見えなくなったり、耳が聞こえなくなったら、どうなるのでしょうか？暗い闇の中に放り込まれたり、音のない世界に投げ出され、きっと一歩も動けないでしょう。

私達は同じ生命を持つ人間として、共に輝き続けられる人生である様、また、お互いが住み良さを共有しあえる社会になるよう努力しなくてはなりません。